

感じ、すごく嬉しかったです。お母さん方も普段はなかなか本音を言えないことも多いと思いますが、ちょっとしたスイーツを食べたり、コーヒーを飲みながらお話していく中で、プライベートのことも話してくれるようになって、私自身もたくさん笑顔にさせていただいています。

**カフェの「OONOS CAFE」は、保育園の名前（大野山保育園）を掛けていると思うのですが、カフェ開設に込めた想いを教えてください。メニュー、営業日なども教えてくださいますか。**

高山：大野山保育園は今年で開園から75年を迎えますが、ここまで園を続けてこられたのは地域の方々の支えがあったからだと思っています。地域に感謝と恩返しをするのが私の一番の役目なのかなと思っており、このカフェの名前も地域を大事にしたいという想いから地名をモチーフにしました。メニューは、通勤の車の中でちょっとつまんで食べられるものがないかなと考え、スコーンにしました。食育を柱にしている園ならではの強みを活かし、保育園の裏山で収穫した山椒やもち草、畑で収穫したいちごやブルーベリーなどの季節の材料を使うことも大切にしています。また、お菓子専用の粉を使ったり、バターや砂糖は控えるなど、健康面に配慮した工夫もしています。地産地消という目的も勿論ありますが、子どもたちと一緒に収穫した材料を使った商品を提供することで、お母さん方との会話も弾みます。親として子どもが園でどんなふうに過ごしているのかは、とても気になるものです。担任だけでなく園全体が子どもたちを見守っているということを伝えたいという想いもあります。お母さん方や地域の方々にとってささやかな楽しみになってもらえたら嬉しいですね。今、カフェは月2回金曜日に営業しています。プレオープンを通し、市場調査をしながら、これは誰のためにやってるんだろうとか、この考え方は間違っているんじゃないとか自問自答しながら、事務方の先生方と試行錯誤しました。曜日についても、保護者の方も一週間仕事を終え、比較的气氛に余裕ができるであろう金曜日に決めました。

**カフェで使っている道具等はどのように用意したのですか。**

高山：地元の小学校を退職された校長先生が当園に勤務していますが、その先生のご自宅にあったお蔵を取り壊すことが決まり、その際不要になった家具などがたくさんありました。その時には既に数年の内に地域のためにカフェを開こうと考えていたので、予め使えそうな物をいただいていたんです。少し壊れているものもありましたが、皆で

洗浄したり修理をして再利用できる状態にしました。再び命を吹き込むことで、お店で使える道具として生まれ変わりましたね。また、カフェに置かれているメニューボード、看板などはすべて園の職員が手作りしました。器用で絵が得意な方が多かったので、その特技を活かし、みんなでこのカフェを作り上げました。皆さんの協力なくしては実現できなかったと思います。本当に感謝しています。

**高山さんにとってカフェはどんな存在ですか。**

高山：誰でも気軽に立ち寄れて一息つける安らぎの場になって欲しいと思っています。在園児、保護者、地域の方々だけでなく、卒園した子どもたち、その保護者…みんながつながる、みんなの成長を見守れる場所にしたいです。この地域に欠かせないコミュニティの場でもありますね。だからこそ、私の代で終わってしまうのではなく皆に必要とされる存在として永続的に続けていきたいと思っています。訪れる人々が「ここに来ると安心する」と感じたり、帰ってきたい場所になれば嬉しいですね。

**最後に今後の目標などがあればお聞かせください。**

高山：今は、月に2回、朝夕の限られた時間で開いていますが、今後、保育園の目の前にある家を修繕してお店として活用していきたいと考えています。他にも地域の耕作放棄地を活用した園の畑で収穫した野菜なども使ってちょっとしたお惣菜なんかも提供できたらと思います。そして、今まで以上に地域の人々とのつながりを深めたり、地域のお年寄りにも貢献できる場を提供したいと考えています。また、園の職員も高齢化しているので、退職後にその方が活躍できる場所にもしていきたいですね。皆と一緒に地域の様々な人々をつなげる役割を果たしていくことで、私たちの取り組みがより多くの人に知ってもらえたらと思います。



Instagramはこちら

◆ OONOS カフェ

〒409-2532 身延町大野 839-3 大野山保育園駐車場奥  
HP <https://oonosan.com/>